



気ままな休日

(財) 地方公務員等ライフプラン協会 紺谷 健一郎

バ

バイクの免許を取得して3ヶ月ほど経ったときのこと。初めてのソロツーリングに出かけようと急に思い立った。雨の気配もなく、気温も暑すぎず寒すぎず、ツーリングには最高の日和だ。インドア派の私でも、こんな日曜の午後を家でぼんやりと過ごすのはあまりにも惜しく感じた。



この年の6月に免許を取得、同時にバイクを購入した。当時社会人2年生であった私にとっては小さな出費ではない。経済設計もなにもあったものではなく、こんな私が今やライフプランがどうのこうのという職にあるのだから、人生どこでどう転ぶかわからないものだ。購入に踏み切った理由としては、職場の先輩と酔った勢いで約束した…というもある（飲み会で守れない約束をしては後悔するタチなので、こればかりは守りたかった）が、何よりも大学生の頃からの憧れが大きい。採算度外視で、小さな夢を叶えた。

免許を取得してからというもの、職場の先輩方や彼らの所属するサークルの面々に連れられ、各地を走り回った。楽しいことももちろん、つらいこともたくさん経験した。特に自然の厳しさには何度も痛い目にあわされた。しかし、サポートしてくれる方々がいたおかげで、失敗に学びながらも、私のツーリングライフは幸福なスタートを切ったと思っている。

そんな経緯があり、今回のソロツーリングに至る。当時在住していた札幌の実家から程近い、支笏湖を一応の目的地とした。プランとしては非常にイージーで、自宅のそばを走る国道を、ひたすら南下するだけというものだ。これまで先輩方に守られながら走っていただけに、若干の心細さがあったので、控え目な目標設定だ。自宅からの距離は40km程度だろうか。

出発時こそ多少の緊張があったものの、道中はトラブルもなく、緊張がほぐれる頃にはもう到着してしまった。見慣れた支笏湖畔で、缶コーヒー片手に一休み。

近場とはいえ、無事に目的地に辿り着いたことが自信になり、今度は当てもなく走り出す。ツーリングに限らず、1人で行動することは、このフットワークの軽さや気ままさが魅力だ。集団行動にも個人行動にも、それぞれに違った楽しみがあると思っている。

当てもなく走り続けると、蝦夷富士の異名を持つ羊蹄山の麓に行き当たった。思いつくままに、その名峰を一



望できる温泉に立ち寄り、露天風呂で疲れを癒す。温泉を後にするともう日が傾いており、心地よい夕風を浴びながら、ようやく帰路に就く。大幅な寄り道となった。

初のソロツーリングは大成功…のように思えたが、この後峠に入ると急激に冷え込み、湯ざめも相まって、身を震わせながら帰宅するという情けない結末に終わった。でも、多少の失敗こそが、記憶に残ったりするものだ。少しくらいやりすぎでいい。

たまにはこんな、行き当たりばったりな休日の過ごし方も、刺激になって良いのではないだろうか。そう思えるのは結果オーライだったからかもしれないが。